

はじめにおわりあり

子供のときから天邪鬼だった。小学生のときに『天才バカボン』が流行していたせいか、バカボンパパの、反対の賛成の反対なのだ！』という文句が頭からはなれず、いつも何かを疑っていた。先生が「右向け」というと、左がどうなっているのか気になった。

高校生になった。第三次漫オブームとやらで、決してギャグにしてはいけなくはすの陰惨な事件が、朝のワイドショーのネタになった。犯人はA地点からB地点へと移動したのです……云々。ワイドショーは朝から放火殺人現場、ひき逃げ、失踪家族の捜索など、再びヘッドに戻りたくなくなるような憂鬱な情報ばかり流した。レポーターは、かつて二枚目で真面目な役柄が取柄の俳優たち。彼らが迫真のレポートを披露していた。それがいけなかった。本当の驚き、本当の恐ろしさ、本当の諦め……すべてが、その演劇的なまでに過剰に装飾された演出によって、事件の本質を奪ってしまった。

他人の不幸はネタなのだ。三面記事はひたすらショーアップされ、テンションの高い残酷なもの

しか報道価値はない。人を殺したくらいではそれら役者陣とテレビクルーを派遣することはないなにせ、1年間で1,452件(2003年度)もの殺人事件が起きており、土日を除くと1年間で261日はワイドショーがあるのだ。1日平均55件の殺人事件から特別「トジャスなものを選びすぐらなければならぬのだ。しかも、各テレビ局の競争もある。一刻も早く殺人者の親族、友人、近所の評判、職場の様子、そうそう忘れてはならないのは、犯人の小学生の卒業論文の入手だ！

大学を卒業し、マスメディアに関わるようになると、情報の送り手のことが多少わかるようになってきた。なんでもマスメディアを鵜呑みにしてはいけない。本書で何度も出てくるが「複眼思考」が大事なのだ。ひとつの物事には必ずいくつかの側面がある。時に自分だけの仮説や推理では到達し得ない真実も、何人かの意見を総合するとおぼろげながら、何かが見えてくる。ここに掲載されているコラムは、いまから9年以上前に月刊『サテライトマガジン』から原稿依頼され、以降毎月執筆したのから新しい順に編集してある現在(月刊『Bhagat』で連載中)。今となっては、忘れられた出来事や事件も多いが、敢えて注釈はつけなかった。少しずつ過去に遡るよう構成することで、徐々に体と脳みそを慣らしてもらいたいと思ったからである。

本書執筆にあたっては、いつもポジティブな感想をくれる田中絵美子編集長、20年以上の友人で本書のブックデザインを快く引き受けてくれた高松秀君、素晴らしいあとがきを書いてくださった橘川幸夫さん(株)オンブック代表取締役)、そして、題名にぴったりのイラストを提供して下さった漫画家の椋図かずお先生、本当に感謝します。

2006年8月 福田 淳

はじめにおわりありき…………… 3

2006年…………… 13

メディア炎上

コピペが生んだ悪のトリック

タダで失うモノ

隣の芝生は青い海

決して人には話さないで下さい

仮面の告白・ワタシとわたし

インディーズアニメは現代のマンガ

ホリエモンへの手紙

参加することに意義がある時代

2005年…………… 45

ゲームな脳の人たち

通信と出版の融合

大きなツツラ、小さなツツラ

情報過疎ニッポン

ポップカルチャーは死なない

Someone Needs You

代理人のいない街

わたし自身の社会

おしゃべりと独身の融合

サザエさんとホリエモン

メディアのチカラ

コマ送り人生

2004年…………… 83

愛サレ時代

B面の感性

87 84 80 77 74 71 68 65 62 59 56 52 49 46 41 37 33 30 27 24 21 18 14

勝負の時	90
スグきれるスグ飽きる	93
現実凸凹	96
ネット万歳!	99
ひとりぼっちのチャット	102
神話としての事件報道	106
裁判長殿、失うものは何もなし!	109
アバター願望	112
情報の棲家	115

2003年	118
町の声はウン	119
三面記事に真実がある	122
ネット社会に生きる	126
マスコミの壁	129

スライディングドア	132
市中引き回しの上、打ち首	135
ネット心中を阻止するパナウェーブ研究所	139
SARSと嘘と検温装置	142
信じるものは救われる	153
俺の縄張り、君の縄張り	156
他人の非難、自分の批判	159
私泥棒	162

2002年	165
セレブ病	166
アメリカ万歳	169
感情的報道の行方	172
いろいろな玄関	175
自称「有名人」	178

地球は誰のもの？
 Wの悲劇
 メディア規制／規制メディア
 ブロードバンドでGO!!
 世界一周3日間

181 184 187 190 193

2001年.....196

「安全宣言」の広告効果
 アメリカ君
 誘拐ビジネス
 ワン切り
 噂社会
 ある事実
 死ぬまで勉強!?
 ワンクリック爆弾

197 200 203 206 209 212 215 218

政経分離
 政治面を二面に
 17歳問題検討委員会
 あべこべの世界へ

221 224 227 230

2000年.....233

前言撤回
 オリンピック嫌い
 割愛、愛を省くということ
 危険な考え
 幸福をはかる機械
 サーカティアンリズム狂う
 バーチャルな警察
 動物もどき
 生命は軽い

234 237 240 243 246 249 252 255 258

決めたこと、決めること、決めるまで
美人製造機
縄張りと臨界事故

264 262 260

あとがき 橘川幸夫…………… 266